

令和元年度 第1回 三重県総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日 時 令和元年5月16日(木) 15:15～16:50
- 2 場 所 三重県勤労者福祉会館 6階 研修室
- 3 出席者 知事、教育長、教育委員4名
- 4 議 題
 - ・令和元年度における総合教育会議の運営について
 - ・次期「三重県教育施策大綱」策定にあたっての考え方について
 - ・外国人児童生徒教育について
- 5 主な意見 ○：教育長・教育委員、●：知事

<令和元年度における総合教育会議の運営について>

- 新学習指導要領で求められている資質・能力の一つである「学びに向かう力」を幼児期から育むことが重要であるという認識が広がっている。幼児教育について議論することは、学校教育における課題解決にもつながると考えるので、ぜひ議論したい。
- まさに、学力向上、体力向上につながるのが幼児教育である。
- 実際に現場がどう動いているのかを知りたいため、学校訪問などをさせていただき機会と総合教育会議のテーマをつながりがあるようにしてほしい。
- 就学前教育で育みたい資質・能力をまとめたところなので、それに基づく報告をするいい機会になると思う。
- 就学前教育について、保幼小の接続だけでなく、教育施策大綱の議論にもつながるよう、内容が深まるようにしてほしい。

<次期「三重県教育施策大綱」策定にあたっての考え方について>

- 長文とならず、また、分かりやすく表現して欲しい。
- 時代の考えるべき要素を焦点化・重点化して、未来の社会の姿を描いた上で、大綱の向かうべき方向性につなげていくべきである。
- 人生100年時代ということを考慮して、施策体系の縦軸をもう少し細かく分けるなど、分かりやすくしていただきたい。
- 現大綱の「生き抜いていく力」の中の「自立」と「共生」という言葉について、もう少し積極的で具体的な言葉で示してはどうか。
- 家庭教育と子育て支援について、子育ては子どもが生まれてからではなく、妊娠期から始まると考えているので、その時期からの視点も入れてほしい。
- 大綱と教育ビジョンで役割分担をしてほしい。
- 今後策定を進めるうえで、これまでの意見について、3点整理させていただきたい。

1点目は、「教育を取り巻く社会情勢の変化」を受けた「基本方針」が理解しやすいように記述を工夫する。

2点目は、三重県がより良い教育を進めるために、次期大綱の範囲をもう少し広げて考えていく。

3点目は、主な取組内容については、予算の裏付けに関わらず4年間で取り組むべきものは記述するよう、各委員には積極的にご意見いただきたい。

社会情勢の変化の中では、成年年齢が引き下げられ、子どもたちが早い段階から権利や義務に向き合い、社会を担うことになるので、令和の時代にふさわしい「大人」として生き抜いていく力を社会全体で育成していくことが最も大事なことを考えている。積極的にご意見をいただきたい。

<外国人児童生徒教育について>

- 日本語の理解が不十分な保護者が、子どもと一緒に学ぶことができれば、「三重県ならではの」の特徴になるのではないかと。
- 外国人児童生徒と一緒に学ぶことが日本人の子どもたちにとってどんな意味があるのか、教育委員会としての考え方を示す必要があるのではないかと。外国にルーツをもつ子どもたちと共に暮らす未来に向けた教育ということを中心に打ち出して施策を考えてはどうか。
- 語学の習得だけにとらわれて実際の学齢よりも下の学年で指導する場合、学校現場では様々な点で指導が困難なことがあると聞いている。
- 学習上の様々なケアが必要な外国人児童生徒が、コミュニティ・スクールや学校支援地域本部など既存の制度を活用して、地域住民のサポートを受けることができる仕組みを作ってはどうか。そのことで、地域の方が外国人児童生徒への理解を深めることにもつながるのではないかと。
- 英語の授業において活躍する外国人生徒の事例はあるが、日本語によって他の教科の学習を理解することは難しい現状がある。英語で様々な教科の授業を行うという発想もあってもいいのではないかと。
- 日本人と外国人は、共に暮らし、共に社会を支える仲間である、という意識に変わっていく必要があるのではないかと。
- コミュニティに手伝っていただける仕組みを学校自身が作っていく事例が増えるといい。

外国人の保護者が子どもと一緒に学ぶ機会を作っていくことはいいアイデアである。そうすることで外国の人たちが、日本社会で安心して暮らせることにつながるとともに、県の進める様々な分野の課題の対応にもつながる。

以上